

○ほん

『みんないつしょに』

童話作家・柴野民三の足跡

渡辺玲子著

虫

虫に涙があるだろか

虫の母さん死んだとき

虫の子供はなくだろか

どんな小さな涙だろ

虫がどこでなくとも

一ぺん見たいな僕ひとり(1932年)

童話童話作家・柴野民三は明治大正、

昭和に生きて沢山の作品を世に出した詩

人です。渡辺玲子先生は柴野民三の足跡

をたどって彼の作品を紹介し、改めて詩

人の再評価をしました。

東京の有楽町に育つた柴野は近くの日比谷図書館に通い、児童図書室で児童書を読み耽りました。そこで読まれた沢山の世界おとぎ話、クオレ、フランダース

の犬等に接して、愛情の世界に導かれ柴野の作品に見られる明るく暖かいお話をが生れたのでしよう。

柴野の作品は童謡、童話、伝記(二宮

金次郎、源義経)少年少女名作、古典で

はクオレ物語、ガリバー冒險

となりのたまご、「ほんとうの助け方」「うさぎとあおくさ」等々沢山あります。

童話の挿絵は武井武雄、黒崎義介等々懐かしい人の名前が見られます。北原白秋ほど有名ではなかつたが、柴野民三は

子供に愛される作品を沢山残しました。

評陶易王

よう。

老爺とトラ

ずきん　ずきんと寒さがしみる
星夜のさばくに 黒い影が二つ。

それは、よぼよぼのじいさんと

老いぼれたトラ。

じいさんは、骨ばかりのひざをか

かえて、

つぶれたように寝そべったトラに

寄り添つてている。

ふたりとも やつと息をし

ろくに聞こえない耳をそばだてて

よくも見えない目をしばたいて

天の夜祭りを見上げている。

(文芸社・1500円+税)

子らに愛された多数の作品埋もれた詩人を再評価

